

保育者からの
メッセージ



平成18年 1月編集・発行
平成21年 1月改訂
平成24年 9月改訂
令和 8年11月改訂
仙台市こども若者局
幼稚園・保育部 運営支援課



絵本は、こどもだけでなく、大人の
心も揺さぶり、楽しませてくれます。
こどもに読んであげながら、親子で、
絵本の世界に冒険に出て、楽しいひと
ときを過ごしてみませんか。

絵本が育む豊かなころ

5～6歳のころは、いろいろな言葉を覚えて使ってみようとし、新しい言葉や表現が身についていきます。6歳ごろには、自分でお話を作ったり、想像あそびや、空想あそびもするようになります。絵本を見たり、読み聞かせたりする中で、言葉・心・考える力の土台が育まれます。

登場人物の気持ちを考えて、「うれしい」「かなしい」「こまった」等、心の動きに気付いたり、自分の気持ちの伝え方を知ったりするきっかけになります。

自然や科学の不思議に関心を持ち、「なぜ」「どうして」「このあとどうなるのかな?」「自分だったら…」と考えたり、調べたり、試したりして楽しめます。

絵本を通していろいろな物語に出会う中で、友達関係や社会でのルール、思いやりなどを知る機会にもなります。

大人と一緒に楽しもう!

- ♥ 大人が絵本を読み聞かせたり、興味がある絵本と一緒に見たりするのは親子のふれあいになり、こどもの安心感が深まります。
- ♥ 自分でも文字を読めるようになってくる時期ですが、おうちの方の温かい声で読んであげてください。物語の世界と一緒に楽しむ時間が、絵本への親しみにつながります。



<5～6歳のお子さんに人気の絵本>



<たねはいのちのおわりとはじまり>

鈴木 純／作 ブロンズ新社
種から始まる植物の一生を、美しい絵でわかりやすく描いた絵本。命のつながりや自然の不思議にふれられます。

<りんごかもしれない>

ヨシタケシンスケ／作 ブロンズ新社
机の上に置かれたりんごを見た男の子が、「これは本当にりんごなのだろうか?」と考え始めるお話です。『もしも』を繰り返しながら想像の世界を広げる楽しい絵本です。

<こんとあき>

林明子／作・絵 福音館
大事なぬいぐるみの“こん”を直してもらいに、おばあちゃんの家まで大旅行。旅の途中には思いがけない出来事もあり、ハラハラドキドキの冒険が続きます。

<じごくのそうべえ>

桂米朝 田島征彦／絵 童心社
軽業師（かるわざし）の「そうべえ」が、ひょんなことから地獄へ行き、そこで出会った仲間達と大騒動を巻き起こします。迫力ある絵も魅力です。

<バムとケロのにちようび>

島田ゆか／作・絵 文溪堂
仲良し2人がくり広げる楽しいお話。主人公の犬のバムと、やんちゃなかえるのケロちゃんが、雨の日曜日を楽しく過ごすお話です。

<ともだちや>

内田 麟太郎 / 作 偕成社
キツネが「ともだちや」を始めます。「1時間100円で友達になります」という商売を始めるのですが、オオカミと過ごすうちに、本当の友達とは何かに気づいていくお話です。

※図書館（移動図書館）児童館・保育所などにもたくさんあります。
どんどん利用してくださいね!